

# Facultyのレジリエンスを実現する 「オンライン化相談室」の実践

NIIサイバーシンポジウム 第19回

2020年10月23日(金)

龍谷大学社会学部准教授

オンライン授業推進主任、コミュニティマネジメント学科主任

築地 達郎

[tsukiji@soc.ryukoku.ac.jp](mailto:tsukiji@soc.ryukoku.ac.jp)

You,  
Unlimited



龍谷大学  
RYUKOKU UNIVERSITY

# 1. 龍谷大学におけるコロナ対応

□文系理系を含む10学部10研究科

□学生数 20,377人(2020年5月1日現在)

●大学院、短期大学部含む

□主要3キャンパス

●京都市内2ヶ所、大津市内1ヶ所(社会学部は大津・瀬田)



(今週の龍谷大学瀬田学舎)

前期＝すべての科目をオンライン授業で開講

後期＝一部で対面授業を再開

- ・ゼミ、実習、実技科目は原則として対面
- ・講義系科目は原則としてオンライン
- ・多くの学生がおおむね週3回登校するように配慮

## 2. 社会学部「オンライン化相談室」の取り組み

- 常勤教員にICT専門家がない。
  - ⇒ 非常勤講師を含めた全担当教員によるP2Pサポート体制へ
- “ICT弱者”、とくに非常勤講師にフォーカス
- 「ユーザー指向」の情報共有

# 非常勤講師への依存度は33%

## 学部 3学科体制

- ・社会学系 2学科
- ・社会福祉学系 1学科

## 大学院 2専攻

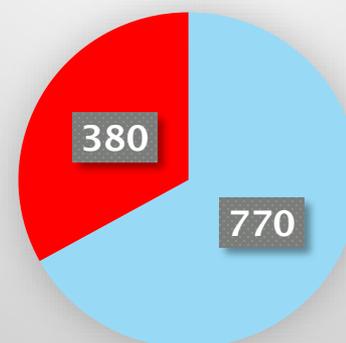
## 演習、実習、実技系科目に重点

学生数 2282名(大学院含む)

常勤教員 62名

**非常勤講師 111名**

## 学部開講科目 (計1150科目)



■ 常勤教員 ■ 非常勤講師

# 多くの非常勤講師が追い込まれた状況

## 情報過疎

- ・勤務先大学からの情報提供の不足

## 情報システムのバラつき

- ・勤務先によってツールが異なる

## 在宅勤務環境が不十分

- ・機材不足、通信環境

## 孤独

(複数の非常勤講師へのヒアリングより)



**不安の増幅がFaculty全体のパフォーマンスを下げる懸念**

# Teams上に「オンライン化相談室」を開設



【オンライン化相談室】社会学部・研究科... ⋮

一般

(引越し作業中) 授業オンライン化

@〔最初の一步〕イチから始めるオンライン授業

@雑談チャンネル

★CM学科・入門ゼミ／実習担当者 白

00 ニュース／NEWS

01 〔お悩み〕学生の授業参画・出席管理

02 〔お悩み〕教材作成について

03 〔お悩み〕授業運営

04 〔お悩み〕大人数授業について

05 〔お悩み〕授業の編成・進行について

10 〔お悩み〕技術 = ネット接続やアカウントについて

11 〔お悩み〕技術 = 各種Webサービスについて

20 著作権

30 トラブル

98 教務課窓口 (非常勤講師向け)

99 リンク集・資料室

## 2020年4月12日

- Teams上に全非常勤講師を含む「チーム」を開設
  - 教務課との協働やFD研修会との組み合わせにより、**丁寧な誘導**を図った。
  - チャンネル名をわかりやすく。**ICT苦手意識層を包摂**。
- ピア・トゥー・ピア(P2P)のサポートを開始

情報システム部門が発信する情報をユーザー指向で再整理  
⇒「**これができる**」ではなく、「**これをしたい**」にフォーカス



社会学部お助けサイトβ版

どのようなことでお困りですか

授業をオンライン化するのって、開講する側も受講する側もたいへんですね。  
もしもカベにぶつかったら、まずはココへ戻ってきてください。  
何か答えが見つかるはずです。

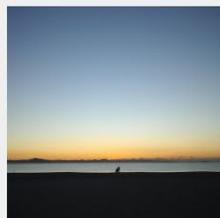
⇒オンライン授業に関わるお悩みやご意見はこちらへ。

# 「困りごとは何ですか？」

## 〔困りごとは何ですか？〕



臨場感あるグループワークを。



とにかくシンプルにやりたい。



授業アンケートをスムーズに。



アカウントの切り替えが分かん！



(工事中) 大規模授業の運営を効率化したい



Meetの使い方に悩む...



IT用語が難しいです...



(工事中) 多様な学生への合理的配慮



スマホオンリーの学生にどう向き合う？



データ量を減らしたい



(工事中) 学生の受講サポートに煩わされたくない



音声・映像処理をこなしたい

### 3. 振り返りと考察



多くの非常勤講師との間で「顔の見える関係」を構築できた。不安や不信をある程度受け止めることができた。

- ・ オンラインツール(今回はTeams)だけでは不十分。**声による**電話連絡や**ビデオ会議ツールによる**FD研修会との組み合わせが肝要。

ICT専門家から発信される情報は正確・緻密だが、“ICT弱者”には難しすぎ、ユーザーが「したいこと」に直接答えていない場合も多かった。

- ・ ICTに「できないこと」がわかりにくい。
- ・ 「したいこと」はカリキュラムポリシー(CP)に直結している。**教育現場側による主体的な“翻訳”**が必要。

# 学生から見れば「ひとつのFaculty」



ハイブリッド型授業に  
要求される方法論的  
“質”の、加速度的な高  
度化

- ・ “**ポストZoom**”に対応できるよう、組織的能力の整備が急務。
- ・ **カリキュラムポリシーとICTを架橋**する必要。しかし、そうした人材は**内部化**されていない。

非常勤講師などの人  
材にP2Pサポートを  
担ってもらうための条  
件整備

- ・ 危機対応における貢献はほとんどボランティアであった。
- ・ 企画立案的な業務を担ってもらうことなども想定し、契約上、予算上の事前準備が必要に。



postコロナの時代は、Faculty全体としての教育のレジリエンスを要請。



脱「ヒエラルキー型Faculty」。  
「ネットワーク型Faculty」に向けて創造的破壊と、新たな制度設計を。



RYUKOKU  
UNIVERSITY